

ユン・ミヒャン代表が送る

挺対協週刊ニュース 2015 - 3 号

1月26日(月)~2月1日(日)

約一ヶ月前、プレゼントでいただいた西洋蘭の鉢植えが花を咲かせました。数日前から花びらが落ちる音がホロリホロリと頻りに私を驚かせます。花びらはもう数枚を残すのみです。ありったけの力で何とか持ちこたえている数枚の花びらを見て、今日はハルモニたちに思いをはせます。

週刊ニュース 2 号をお届けしながらファン・ソンスンハルモニの訃報をお伝えしました。しかし、今日、またハルモニの訃報をお伝えすることになりました。韓国政府の日本軍「慰安婦」被害者生活安定支援法の対象者の中で最後に、238 番目に登録された方。十数年に及ぶ療養院での生活の末、1月の最後の日である 31 日、病院で寂しくその生涯を終えました。寒い日に遠くへ旅立つハルモニ、どうかその道が春のような暖かな道であることを願います。

今後の週刊ニュースではハルモニの訃報ではなく、ハルモニと共に解放の喜びを伝えるニュースをお届けできることを願います。

挺対協常任代表 ユン・ミヒャン

1月26日(月)

1. 全羅南道和順(ファスン)郡に住んでいたファン・ソンスンハルモニが本日朝 8 時に 89 歳で逝去されたという訃報を遺族から受け、報道資料を発表しました。ハルモニの冥福を祈ります。遺族の皆さんが円滑にハルモニの葬儀を行えるよう、挺対協の協力業者である〔ナムムとナムム〕や〔太陽相助〕などに連絡し、様々な行政的・物質的・財政的支援を受けられるよう手配しました。いつもハルモニたちの逝く道に寄り添ってくださる〔ナムムとナムム〕・〔太陽相助〕に感謝せずにはられません。
ファン・ソンスンハルモニは 1962 年に全羅南道長城(チャンソン)郡で生まれ、17 歳の頃に釜山の工場に就職させてやるという男たちの言葉に騙され、ついて行きました。釜山と日本を経て南太平洋のナウル島で終戦までの約 3 年間、日本軍「慰安婦」として性奴隷生活を送りました。解放後、故郷に戻り長い間凄まじい貧困と帯状疱疹、脳梗塞、糖尿など様々な疾病に悩まされましたが、平素のハルモニは温かな人柄でした。挺対協スタッフがハルモニの家を訪問すると、育てたカボチャやサツマイモなどを準備し、近所の人々にもお裾分けするような方でした。ハルモニが逝く道が平和あふれる道であることを祈ります。
2. 夜遅くまで記者からの電話が鳴り響きます。記者たちの電話に応じる間に一日が過ぎてしまいました。ハルモニの訃報が韓国社会にもう一度、日本軍「慰安婦」問題解決の緊

急性を知らしめています。今後、1月26日はペ・ヨンジャハルモニ、キム・グアンネハルモニ、ファン・グムジャハルモニの命日に加え、ファン・ソンスンハルモニの命日であることも記憶してください。

3. 挺対協週刊ニュースの再開から2度目のニュースお届けする中、週刊ニュースをご覧になった沢山の方々から挺対協の活動家たちの仕事量を心配して「健康は大丈夫？」と聞いてくれたり、「先は長いからゆっくりやろう」と仰る方もいました。ファン・ソンスンハルモニの訃報に「ハルモニの冥福をお祈りします」という方もいました。沢山の激励メール、活動家としての人生を支持し、賞賛して下さるメールもありました。それらのメールを読みながら、豚もおだてりや木に登るという言葉を思い起こしました。そして「私もこんな賞賛を後輩たちに、他の活動家たちにしてあげないと」とちよっぴり活動家として私が持つべきもう一つの心得も学ぶ時間となりました。
4. 延世医療労働組合がハルモニたちのシェルターを訪問し、ハルモニたちに栄養剤の注射をしてくださいました。定期的にハルモニたちの健康管理をして下さっている方々です。



1月27日(火)

1. 朝早く、キム・ドンフィ事務局長とソン・ヨンミ所長がファン・ソンスンハルモニの葬儀に向かいました。息子さんから連絡を受けて早朝から車を走らせ遺体安置所に到着すると、ハルモニの家族と地域のお年寄りが静かに葬儀を行っていました。ハルモニが最後に逝く道を静かに見守って下さる方もいました。〔ナムムとナムム〕そして〔太陽相助〕の方々です。ファン・ソンスンハルモニからの最後のお膳を頂き、夜にソウルに戻

りました。



1月28日(水)

1. 第1163回水曜デモは1月26日に亡くなった故ファン・ソンスンハルモニの追悼で始まりました。参加者たちは故人への黙とうで心から哀悼の意を表しました。青少年、ボランティア、挺対協共同代表などが参加者を代表し、真心を込めて遺影に白い菊の花を捧げました。



深い悲しみの中の水曜デモでしたが、今日の水曜デモの主管は人権サークル H.I.T が自分たちのサークルの紹介をしながら第 1163 回水曜デモが始まりました。挨拶と経過報告を務めたユン・ミヒャン挺対協常任代表は、今日、また一人のハルモニが世を去られたけれど、全国各地で大変な思いをしながら暮らす生存者のハルモニたちのために各界が連帯し、力を合わせる時だと強調しました。キム・ボクトンハルモニ、キル・ウォノクハルモニがこの場所にいる事は、この場所に毎週来ることができない他のハルモニたちと既に世を去ったハルモニたちに代わって踏ん張っているのだという事も忘れませんでした。同様に、千回目の水曜デモの時に建てられた平和の碑の隣の空席もやはり、これまで水曜デモに参加したけれど解決を待たずに先に逝かれたハルモニたちの席であり、私たちが共に連帯するための席であると説明しました。ハルモニたちは逝かれたけれど、いつも彼女たちと共に水曜デモを続けていると、私たちの誠心誠意の追悼は即ち記憶と連帯であると発言しました。



人権サークル H.I.T の仲間たちが準備した『3匹の子豚』の演劇が始まりました。オオカミが現れ、長男豚と次男豚の家を壊して、壊した証拠を持って来いと言い逃れします。しかし、末っ子豚の家は、3兄弟が連帯し、他の住民たちの努力もあって、オオカミの企みが水の泡になる、そんな内容に脚色した物語を見せてくれました。セリフや動作一つ一つに今日のデモを準備した H.I.T の学生たちの努力が垣間見えました。

今日はマイナス8℃のとっても寒い日でしたが、忠清南道論山(ノンサン)市のセンポール女子高、京畿道城南(ソンナム)市のボクチョン高校、龍仁(ヨンイン)のソウォン中学校、慶尚北道蔚珍郡の北区中学校など、全国各地から沢山の中高生たちが参加しました。大学生たちも負けじと平和ナビネットワークと希望ナビの大学生たちが参加しました。他にも東学民族統一会、劇団くじら、国民の命令(俳優ムン・ソングン氏が運営する政治連帯コミュニティ)、ソウル大学アクロポリスの学生など、様々な人々が参加し、自由発言でも力強くスローガンを叫び、澄んだ眼差しで平和路の意義を満たしてくれまし

た。



ソーシャルエンタープライズであるマリモンドは水曜デモで挺対協に募金を渡し、この募金がどのようなプロセスで集められたかも説明してくれました。これまで自分がとても楽に生きてきたのでハルモニたちに申し訳ないと挨拶し、涙を流しました。戦争の原罪は日本にあるが、これまで解決の為に行動を起こさなかった自分にも罪があると、涙を流す姿がとても美しく感じる水曜日でした。こうして涙あり笑いあり感動ありの今日の水曜デモは、また一週間後の平和路で再会することを約束しました。



2. マリモンドをご存知ですか？マリモンドは「慰安婦」ハルモニたちの押花の作品をアレンジして商品化し、歴史の中で忘れ去られるハルモニたちの物語を伝える役割を担う社会的企業です。今日の第 1163 回水曜デモに会員 30 名が参加し、マリモンドの販売収益の 50%を生存者福祉基金として挺対協に支援してくださいました。残りの 50%は現在大邱で準備の真っ最中である歴史館建設基金に寄付してくださいました。特にマリモンド

の寄付金は海外の生存者たちをサポートする活動に使われてきました。今年は新たにナビ基金をサポートするキャンペーンを行う計画があります。今日の水曜デモで募金が渡され、クァンジュから来た会員のシン・ナリさんとチョン・ユンさんはとても真っ直ぐに、ハルモニたちに向けられた心がそのまま伝わるような発言をしてくれました。ありがとうございました。今年一年、生存者たちが寂しくないよう、一生懸命訪問・サポートしていきたいと思います。



3. 女性家族部で日本軍「慰安婦」関連教育教材を作成するそうです。教材を作成しているチームが博物館を訪問し、博物館の写真も撮影しました。ユン・ミヒャン代表に一時間ほどインタビューもしました。

4. ファン・ソンスンハルモニの娘婿から電話があり、ハルモニが慰安婦であったという事実を今になって知ったそうです。未だに認識が良くないのか？と、心を痛めて電話をくださいました。自分も水曜デモに参加してもいいのか？と慎重な様子で聞きもしました。 挺対協のホームページを教えて、水曜デモにも来てくださいとお伝えしました。なんとありがたいことでしょうか。こうやって電話をくださり、訃報を伝えながらも遺族の意思でハルモニの名前だけ公開し、写真を公開することができなかった重苦しさが、少し楽になりました。「私たちのファン・ソンスンハルモニ、逝く道でこれを聞いて慰めになっているかしら」とふと思いました。

1月29日(木)

1. 事務所スタッフたちが頑張っています。こうしてヨガ教室は続きます。相変わらず体は思うようには動きませんが、定期的にこうやって運動していれば、いつかは私たちも「アイゴ肩が…、腰が…」とは言わなくなるでしょう？



2. マリモンドのスタッフたちをシェルターのハルモニたちの食事会に招待しました。

昔から一緒にご飯を食べる関係を「シック(食口：家族の意)」と言いますが、ハルモニたちが住むシェルターは公開運営されているわけではありません。言葉の通り、ハルモニたちの休まる場所であり、私生活の場として運営されています。その中で静かに園芸治療プログラムや健康教室も行い、地方からハルモニたちが上京した際の宿泊場所にもなるなど、ハルモニたちの空間として活用されています。そのため、シェルターの名前もハルモニたちが「ウリチプ(我が家の意)」と言っているうちに実際に「ウリチプ」となり、博物館を開館した後は、ハルモニたちがここは「平和のウリチプ」だと仰るので「平和のウリチプ」と呼ばれるようになりました。

しかし、特別な日はシェルターが OPEN になります。すでにハルモニたちに深く連帯している方々と一緒にご飯を食べる時間を持つことがあります。特別なおかずを準備しなくとも、ハルモニたちのいつもの食卓にお箸が増え、ご飯を多めに炊くだけです。もちろん、所長の愛情がたっぷり込められた食卓です。食事が美味しいこともあります、それよりもハルモニたちと一緒に囲む食卓が、何より幸せです。これを経験したことのある方はいつも「恋しい」と言うほど美味しいと言います。この食卓でまさに、ハルモニたちと私たちが一つの「シック：食口(家族の意)」になったという事が、美味しかったという記憶に残るのでしょうか。



マリモンドのユン・ホンジョ代表をはじめ、スタッフたちは皆、最近徹夜続きで非常に疲れた状態でしたが、ハルモニたちと食卓を共にし、「シック」としての情を分かち合いました。人の名前を覚えるが難しいハルモニたちのために、急きょニックネームをつけて自己紹介し、一番年下のスタッフはハルモニの前で歌も歌ってくれました。恥ずかしがりながらもハルモニの前で自分の心を表現するのに躊躇しないこの青年たちを、ハルモニたちはとても愛らしく感じたようです。キム・ボクトンハルモニはいつもより言葉数が多く、荷車を引いて農産物を売り歩いた戦後の生活も語っていただきました。キル・ウォノクハルモニも豆満江(中国と北朝鮮の国境を流れる川)の歌を一曲歌い、十八番の梅花打令(朝鮮王朝時代の音楽)も歌ってくれました。毎日が今日のように楽しい日々であればいいのと思います。



3. EBSで3.1節特別ドキュメンタリー3部作を準備しています。昨年からずっと撮影をしています、今日はユン・ミヒャン代表を一時間インタビューし、これまでのプロセスについて、最近のハルモニの状況について話しました。

1月31日(金)

1. イ・スンドクハルモニのお見舞いに行ってきました。 シェルターのソン・ヨンミ所長は朝早くから大邱から上京されたイ・ヨンスハルモニと日本から来た坪川さんとソウル駅で待ち合わせ、昨年5月に重度の認知症で療養病院に入院されているイ・スンドクハルモニのお見舞いに行きました。ハルモニはしっかり目を開けて、可愛らしい姿でいました。相変わらず鼻のチューブから栄養食を摂っています。イ・ヨンスハルモニが「お姉さん、ヨンスが来たのに分かりませんか？」と聞くと、「わからん」と答えました。鼻のチューブをしょっちゅう外してしまうので、手袋をはめていました。「私に何の罪があってこんな風に手をふさぐんだ！」と手袋を外してくれと叫んだりもします。

そして「神様、神様！」と叫びながら、疲れたのか目を閉じてしまいました。少し前までは全く話せなかった事を考えると、幾分良くなられたようで良かったです。今年ハルモニはかぞえで98歳になります。病室を出る時に「ハルモニ、100歳まで生きてくださいね。また来ますね」と伝えると静かに目を開きました。一日も早く鼻のチューブを外し、ハルモニが好きなご飯を食べられるようになり、私たちのことも思い出して、ハルモニの可愛らしい笑顔が見られるようになることを祈ります。

2. インディペンデント映画製作集団〔プルン映像〕が昨年から、女性家族部の事業の一環としてハルモニたちの映像資料を製作しています。今日は挺対協事務所を訪問し、ユン・ミヒャン代表に約2時間にわたってインタビューを行いました。
3. スカイデイリーがユン・ミヒャン代表にインタビューを行いました。スカイデイリーには毎週団体インタビューを載せるコーナーがありますが、挺対協を紹介したいと申し出がありました。水曜デモについて、日本の右翼の攻撃について、ハルモニたちの状況について、そして今後の計画についても質問を受けました。
4. 今日から2月8日まで、希望ナビが日本へ平和紀行に出発しました。関西と東京を回って仁川空港へと戻る日程で、関西では京都立命館大学平和ミュージアムをはじめ、ウトロ地区で学び、共同壁画を作成し、立命館大学の庵途先生の講義も聞き、日本の学生と交流し、安重根の遺墨、尹東柱の詩碑、京都の耳塚など、京都にある歴史的遺跡を訪れます。2月3日には朝鮮学校高校無償化を求めて毎週火曜日にデモをしている日本の市民と在日同胞たちの火曜行動にも参加し、水曜日には大阪で日本軍「慰安婦」問題解決の為の水曜デモにも参加します。奈良でも平和紀行を続けた後、東京へと移動します。東京では靖国神社を訪問し、吉見義明教授の講義を聞き、アクティブ・ミュージアム女たちの戦争と平和資料館(wam)で学ぶ旅程です。



みんな元気に、深く充実した経験をして戻ることが祈ります。そして日本の学生の友人を沢山作り、これから一緒に歩いて行ける事を願います。

5. 事務所を引っ越します。2012年5月5日、博物館の開館後、挺対協事務所が博物館の中に移転しました。しかし、展示館を中心に企画展示をするため、活動家たちの勤務空間はぎゅうぎゅう詰めで、体をぶつけ合いながら働かざるを得ない状況でした。そのせいか、一層疲労感がたまります。また、訪れた方々としっかり向き合うことので

きる空間さえありません。更に、博物館にグループ訪問がある場合、講演などを求められる事がありますが、その時も別途空間が無いため、博物館の1階で一般の見学者たちの妨げになりつつ行うしかありませんでした。その為、2015年からは博物館事務局を内部に残しつつ、教育館として使用できる別の空間と共に、事務所空間を外部に移そうと探していたところ、ちょうど博物館の近所に賃貸物件があったので、週末に引っ越すこととなりました。引っ越しに必要な備品や物品を購入する仕事は一筋縄ではいかないようです。

2月1日(土)

一日中荷造りをしています。数年間捨てられずに机の上や本棚にたまっていた書類やメモ…。博物館見学者たちに申し訳ない気持ちになる一日でした。

2月2日(日)

1. 朝8時30分から引越センターの職員が来て、一緒に荷造りをし、荷物を新しい事務所に移し、荷解きをし、整理しました。平和ナビたちが大いに助けになってくれました。

「アイゴ、腰が…。足が…」という声が連発される中「肩が…。骨盤が…」という声も^^ 今日のランチはキム・ボクトンハルモニがジャージャー麺、チャンポン、酢豚などで私たちのお腹を満たしてくれました。



2. 引越早々最初のお客さんは挺対協に才能寄付をしてくれているパク・ヘラン先生でした。先生が美味しいケーキを買って来てくださり、私たちの下がった血糖値を再びあげてくれました。